




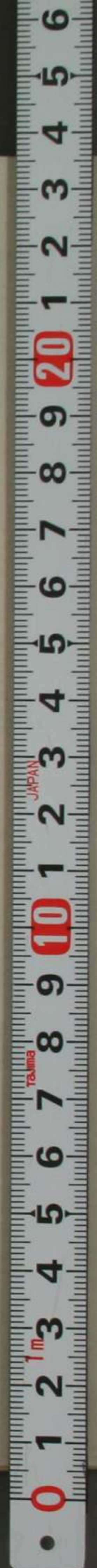
門人申儀之


東都

方道業肉書

方亭真醴人

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.]



いふる悪氣ヲ魅のまじくしる事つて事ある
半石のまじけあせまの彩縹をにみらざる事

一婚嫁ハ他人を嫁りて其生まの事月時を記

相命お性の吉山自書あぬる後取のよんく

毎あきふあるへりて又熟稼のこはは察

相性有命せまらるる其あつたのまじくしる事

毎月中命のあ事忘れしる入来く安業ん

夫婦ふかきと也親族のいふ不及次朋友主信

便人のつき合ふるへき事形り

一家宅ハ人の身命の納めあつて持運ふ事

自中あすしを地不在て年々くく後指さる要

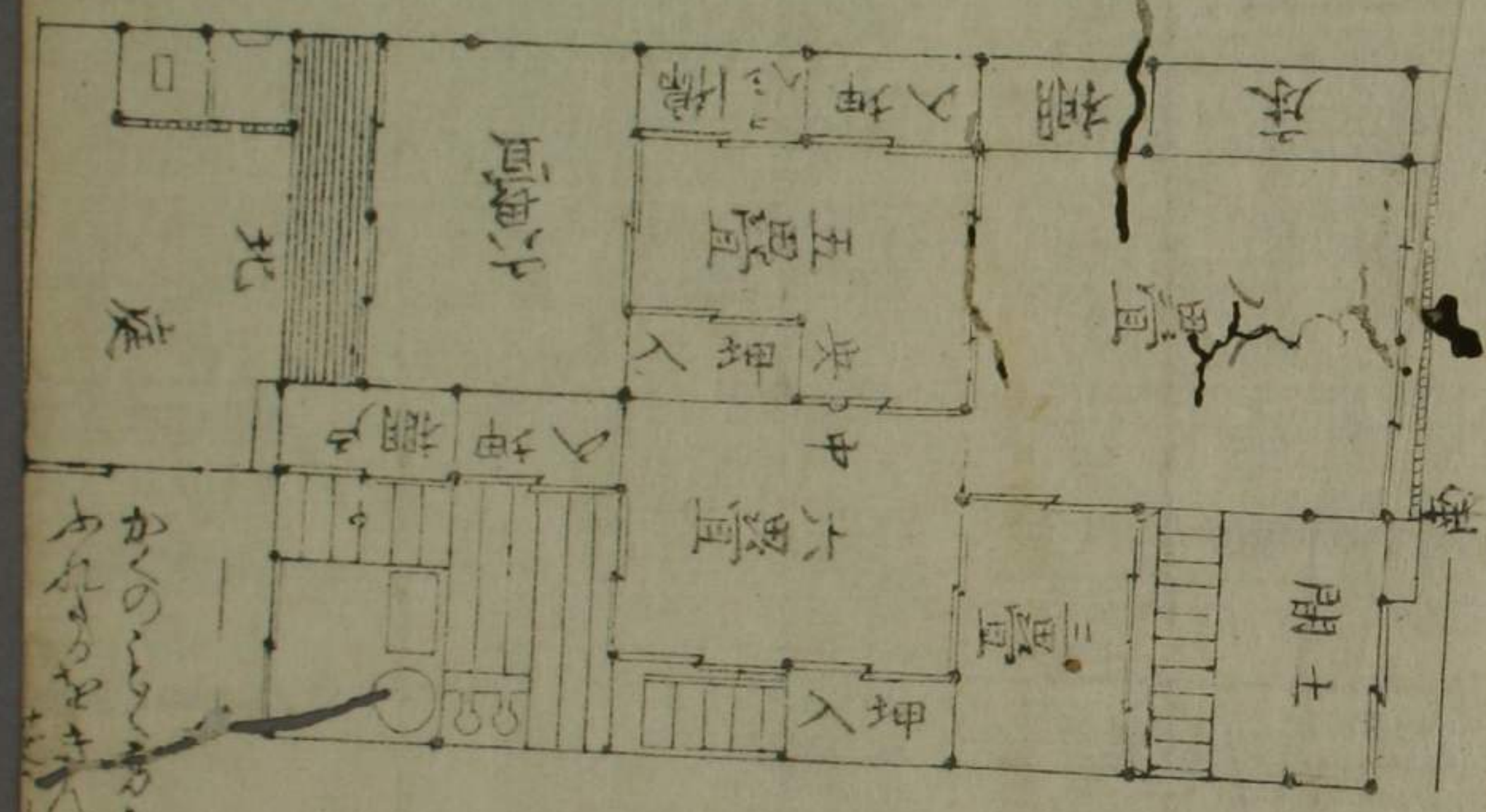
用骨一の具形り地ま遠事ある事の地煙の方局

儀りあつて八位をつきさつて一宅の法ある事人の

生命小會して吉山悪験をりし事入そのたが

世よりある一類て其の大小の流を西
 次川中央を定の真景へ磁石を西東西を
 心し扱又家内の人教習をせし
 月日刻限を毎一生命宅位合合を辨
 年と帛智の神慈多合の化を用とせ
 御書よりなる法術にて等深の
 図面ありふ年書付事定たり志る候

合振方徳面圖



年書付振合

何年 月日時 何人 何人
 何年 月日時 何人 何人
 何年 月日時 何人 何人
 何年 月日時 何人 何人

生年月日時 志るなり
 志るなり

